

コープやまぐち奨励賞

音訳みちしおの会

代表者 田中 博子 (福祉分野/下関市)

活動の動機・目的

視覚障がい者からの地域情報等の強い取得要望により、1993年にカセット情報誌制作「みちしおの会」として発足。毎月1日に地域情報誌として、90分テープに録音制作し無料配布。メンバーは自宅で図書の音訳録音をする。過去の活動も含めて点字図書館に、テープで約3500冊とデジタル録音図書(デージー)で1067本を音訳録音の蔵書に納めている。

活動の内容

山口県盲人福祉協会 点字図書館所属の音声訳ボランティア団体。

- ①県内の約200名の視覚障がい者に、毎月「みちしお(音訳テープ)」を作成し、情報提供。各自吹き込んだテープを皆で校正し、質の向上をめざす。内容は、新聞や雑誌などから抜き出した福祉関係や教養・文化・消費生活・健康・娯楽など。これまで第246号発行。下関市報・ごみ収集カレンダーも音訳。
- ②新刊を音訳(一冊読みあげるのに約10時間以上)。利用者からリクエストされる本もある。
- ③定例会合の他、視覚障がい者の行事に介助ボランティア参加、市女団連と共催で秋の交流会開催など。近年は、特に視覚障がい者との交流を兼ねて、山口県盲人福祉協会主催の各種行事のガイドボランティアを積極的に実施。そのためにガイドヘルプマニュアルを配布、学習して臨む。街頭赤い羽根募金や「24時間テレビ愛は地球を救う」募金等にも参加している。

社協からの助成金と会費を貯めたものでインターフェースを3台購入し、メンバーの大半が使用できるようになった。しかし利用される方の中にもパソコンを利用できない方もいるため、テープでの録音も行っている。

全会員を対象に、毎月朗読講習会・機器操作勉強会・機関紙発行に努め、新規会員の拡充を図る。特に初心者は、CD-ROM版による朗読録音に取り組んでいる。新人は講座で学べない音訳技術や機器の操作など実践を通して先輩から学ぶ。伝え合い・学びあいで、個々の技術向上と録音図書製作につなぐ。

これからめざしたいこと

視覚障がい者にとっては欠かせない情報源となっており、毎月楽しみにされている。時に点字によるお便りが届くこともある。障がい者の方が声を覚えていて下さって、名前を呼んでもらえたのが嬉しい。その時リクエストもされる。さらに交流を深めて、要望を汲み上げ、受ける側の気持ちに寄り添った、きめの細かい情報発信をめざしていきたいと考えている。

新規会員拡充を継続していく。



みちしおの会メンバーで



街頭赤い羽根募金参加